

裾野麗峰山の会・山行報告書	文・写真 後藤
山行 NO. 1998	
日 時 2022 年 10 月 19 日 (水)	
山 域 上越・未丈ヶ岳 (1553m)	
コース 長泉町 3:40 ー奥只見シルバーライン・泣沢シャッターー8:24 ー泣沢ー赤い橋 8:55 ー標 高点・974m10:00 ー標高点・1204mー未丈ヶ岳 11:41~12:01 ー登山口 14:40	
累計標高差 上り・下り 赤い橋約 600m~1553m=約 953m+50m=1003m	
藪漕度 なし	
難易度 非常に困難 困難 レやや困難 普通 やや易しい 易しい	
越後の仲間と 18 年ぶりの邂逅	
参加者 後藤、加藤	

早朝、3:30に上越まで出掛ける山は久しくなかった。理由は、18年前、浅草岳で交流した新潟「みちぐさハイキングクラブ」(みちくさ、でない)のIさんが、未丈ヶ岳に上がることが分かったからだ。

何故分かったかという元々、週末に我々も上る予定だったが、未丈には「蛇が多い」で問い合わせたら、「明日、上って調べます」が分かった。では、いっそのこと山で「お会いしたい」の思いに至った。



シルバーラインのシャッター

早朝発だったが、意外と眠くなく、予定の9時前に奥只見シルバーライン着。未丈ヶ岳泣沢登山口は、変わっていて、シルバーラインのトンネル・シャッターを開けて入る。シャッターは、トンネル通行車の「有事の避難所」になっている。多くの山に上っているが、こんな登山口は他にはない。

登山口に数台の車。長岡NOがIさんかと思った。泣沢に下って左岸をへつる。ヌルヌルで歩き難い。沢を3回渡り、「への字」の赤い橋を渡って、ようやく本来の西尾根に取り付いた。橋は、手摺がなくちょっと怖い。



向うが見えない、手摺が無い「への字」橋

尾根は明け方の雨で上り難かった。そもそも、こちらの山は、標高が1500m・標高差1000m程度でも厳しい山が多い。何故か。やっぱり山が雪で磨かれていたり、急峻であったり、登山者が少なかったり、雨が多い、などである。

同じ標高差1000mの宝永山2352m峰など比べようもない。富士山の下山は、砂山で下り易い。それに余りに慣れ過ぎると、越後の山は厳しいモノになる。

厳しい西尾根を上る。天気は良かった。風もない。紅葉は素晴らしい。西尾根には、大きく立派な「北五葉松」が点在していた。Iさん聞いて教えてもらった。ただ何故、この尾根にこれほど立派な松が多いのか不思議。恐らく何らかの理由で、先人が残したのであろう。

標高点・974mに上る。展望が開け、未丈が立派だった。50mほど下ると「松の木ダオ」と呼ばれる最低コルだった。再び急登が始まる。徐々に早朝発の疲れが体を支配して来る。

蛇の「抜け殻」があった。他の記録でも、やっぱり「蛇」は多いようだ。昨年9月に上った、能郷白山は「蛇の山」だった。今回は、寒かったのでいなかった。

登山道は、トラバース気味に、尾根左を巻く様に上る所が多く、足場が斜めで歩き難い。これでは下りが思いやられる。

上から何人か降りて来る。概ね若かったのでIさんではなさそうだった。最後の方に聞



立派な北五葉松



紅葉の山・未丈ヶ岳



左・Iさん



2004/04/10 浅草岳（Iさん提供）



浅草岳（Iさん提供）

いたら、「上にまだ3人います」だった。最後の方に望みを託した。更に上って行くと、Kが「キャ～、コンニチワ～！！」と、山々に響く嬌声を上げた。見上げれば、18年ぶりのIさんとお仲間の女性2名がそこにいた。



Iさんと私は同い年だった。山は凄い。ネットで驚いたのが、今年5月連休、4/29～5/5で尾瀬・鳩待峠から越後駒までの縦走だった。

<https://mitigusahc.fc2.net/blog-entry-298.html>

報告を見れば分かるが、荷物は25kg位でザックが傾く位満載だ。後期高齢者がこれ程の縦走を果たして出来るモノか。これには驚いた。同時に私には出来ないと悟った。世の中には、凄い方が居るものだ。

Iさんとは、2004年4月10日、浅草岳スキーで初めて会った。当時の記録を読むと、何故、皆さんと交流がハッキリしなかった。それ以前、1999年にやはり魚沼の香取さんと交流しているので、そんなご縁だったかも知れない。

<http://susono-reihou.babyblue.jp/359.pdf>

そんなこんなで結局、15分程話し込んでしまった。別れは寂しかったが、「捲土重来」でIさんは下山し、我々は山頂に立った。展望は素晴らしかった。北に守門・浅草、すぐ東に明日上の会津朝日岳、更に那須連峰、西に越後駒、南に会津駒と名峰のオンパレードだった。結構寒く、ジャンパーを羽織った。簡単な食事を終え、東面の有名な「草原」に下った。

見事な草原が広がっていた。谷川岳などにもある草原だった。これも雪深い事に起因しているのだろうか。正に「草原の輝き」だった。



草原の輝き

早々に下山。朝より乾いて少しは良かった。相変わらず下りは長い。それでも上りよりは楽だ。Iさんに追いつくかと思ったが難しかった。

泣沢の最後の渡りを終えたら、先方で声が聞こえた。もしやと思ったら、やっぱりIさんだった。皆さんで「ヤマグミ」を採っていた。静岡では、「グミ」は夏のモノだが、こちらの「ヤマグミ」は、秋のモノのようだ。最後に皆さんと記念写真で別れた。

Iさんとは、「18年振りの再会」だったが、それを感じさせない交流だった。来年は、是非、またスキーと越後駒小屋での交流をお願いした。



泣沢登山口



越後駒ヶ岳



未丈ヶ岳山頂